

令和3年度 事業報告

1. 事業の経過及びその成果

(1) 事業の状況

当期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化するなか、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が断続的に発出され、経済活動の停滞や個人消費の落ち込みなど極めて厳しい状況となりました。

そのような中、当社事業別状況につきましては、ホテル事業において新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、東京オリンピック・パラリンピック開催に伴う選手、スタッフの滞在施設としての利用やコロナウイルスワクチン大規模接種会場の利用などもあり宿泊部門において前期比約 39 百万円 (20.1%) の増収、宴会部門においても前期比約 143 百万円 (238.8%) の増収、事業全体では前期比約 217 百万円 (35.2%) の増収となりました。

一方、不動産事業においては、一部テナントの退去に伴い、前期比約 3 百万円 (0.8%) の減収となりました。

施設管理事業につきましては、「収益認識に関する会計基準」の適用に伴い、会計処理方法を変更したこともあり、前期比約 195 百万円 (10.8%) の減収となりました。

設計管理事業につきましては、鹿島開発関連事業の進展に伴い、前期比約 10 百万円 (2.4%) の減収となりました。

なお、土地管理事業につきましては、ほぼ前期の収益を確保することが出来ました。

このようなことから、当期の売上高は、約 3,344 百万円 (前期比 0.3%増)、経常利益は約 209 百万円 (前期比 143.2%増) となりました。

また、今後も新型コロナウイルス感染症における影響が長期に及ぶとの想定から、固定資産の減損処理を行い、特別損失として約 1,446 百万円を計上いたしました。この結果、当期純損失は約 1,230 百万円となりました。

(2) 対処すべき課題

今期におきましては、ワクチン接種が促進され経済活動が正常化に向かう動きがみられることから、新型コロナウイルス感染症の影響は緩やかに回復すると想定されるものの、原材料の高騰など先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況下において、新型コロナウイルスの感染防止対策に万全を期すとともに、ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた事業のあり方を構築してまいります。

ホテル事業におきましては、お客様の安全・安心の確保に努めるとともに、多様なニーズに対応したホテル商品を提供し、売上拡大を図ってまいります。

不動産事業につきましては、鹿島セントラルビルの優位性や利便性などを積極的にPRし、入居率の向上を図ってまいりますとともに、施設管理事業及び設計管理事業につきましては、発注者からの高い信頼性を得られるようこれまで培ってきた技術や知識を活用して、受注拡大に努めてまいります。

さらに、第4次中期経営計画を見直したことから、この計画の各項目を確実に推進し、各事業における売上目標の設定及び進行管理を徹底するなど、きめ細やかなマネジメントによる効率的な運営体制の構築や経費の削減を図り、安定した収益の確保に全社総力を挙げて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。